

## 第2回 超深地層研究所跡利用検討委員会 議事録（要旨）

超深地層研究所跡利用  
検討委員会事務局

日 時：平成10年6月2日（火） 10:30～12:40

場 所：瑞浪市陶磁器会館

出席者：副委員長 日置敏明（岐阜県企画部長）

副委員長 高嶋芳男（瑞浪市長）

副委員長 植松邦彦（動燃副理事長）

委 員 安藤富夫（土岐市助役）

委 員 小栗正臣（瑞浪市議会議長）

委 員 石川嘉康（土岐市議会研究学園都市対策特別委員会委員長）

委 員 正木路雄（瑞浪市連合区長会会長）

委 員 小栗なつ子（瑞浪市連合婦人会会長）

委 員 安藤宗吉（土岐市連合自治会連絡協議会会長）

委 員 楓すよ子（土岐市連合婦人会会長）

委 員 宇野日出夫（土岐県事務所長）

委 員 佐々木嘉三（岐阜大教育学部教授）

委 員 棚橋秀伍（核融合科学研究所安全管理センター長）

委 員 有本建男（科学技術庁原子力局廃棄物政策課長）

委 員 坪谷隆夫（動燃理事）

委 員 田島良明（動燃総務部長）

委 員 木村雅彦（動燃東濃地科学センター所長）

（加藤 晃委員長（岐阜大名誉教授）および大和委員（動燃プロジェクト参事）は欠席）

事務局：動燃、岐阜県、瑞浪市、土岐市担当課室長 他

議 事：

### 1. 開会

- ・事務局より出席者の紹介と、月吉区の委員の出席は引き続きお願いしていく旨報告。
- ・日置企画部長が委員長を代行。

### 2. 挨拶

- ・委員長代行の挨拶
- ・動燃の挨拶

### 3. 各議事項目における主な質疑

#### （1）前回議事録の確認について

事務局より説明の後、第1回の委員会で宿題となった事項について動燃より対応状況を報告。主な質疑は以下の通り。

①前回（第1回）の開催から2年間ほど間があいた理由について

・動燃より前回の会議以降、動燃に係わる一連の不祥事があったことなどによる旨説明。

・これに対し、不祥事があったからこそ開催すべきであったとの意見。

②地元住民の理解を得るための活動について

・理解醸成に対する活動が不十分ではないか、との意見。

③傍聴者に関する記載について

・土岐市議会の研究学園都市対策特別委員会の協議会の資料（平成9年2月4日付け）として配付されたものに傍聴者の17名の内訳が書いてあるとの指摘に対し、事務局より、この点については事実確認の上後日報告するとの回答。

④研究所へのアクセスについて

・研究所へのアクセスの計画について、前回の委員会からの検討の進捗について質問に対し、事務局より具体的に整備されていないとの回答。

・アクセス道路を検討しているような図面があるとの指摘に対し、瑞浪市より、瑞浪市が計画している北部環状線の計画で、既に公開されている検討中の案である、との回答。

⑤勉強会を開いて欲しいという要望への対応状況について

・前回の委員会からの2年間の間にどのような取り組みがなされたのか、について質問に対し、動燃より、東濃鉾山での研究現場の見学受け入れや、機会のある毎に地域にいろいろご説明させて頂いているなどの対応を行っていること、また今後も引き続きより積極的に地域に出ていく努力をしたい、との回答。

⑥跡利用と地震研究の関係について

・前回の議事録に「地震研究は10年か20年では終わらない、長期に仕事を進めていく」という書き方がしてあるが本委員会で検討するののかとの質問に対し、動燃より跡利用については、地層科学研究を終了した後の施設活用の方策を検討することが目的であり、地震研究も跡利用のひとつと考えられる、との回答。

(2) 超深地層研究所計画の概要説明

超深地層研究所計画の進捗状況について、事務局より説明。主な質疑は以下の通り。

・東濃地科学センターが進めている「広域地下水流動研究」について、本委員会の所掌かとの質問に対し、動燃より「超深地層研究所」の跡利用を検討する委員会であり、「広域地下水流動研究」は別の研究である、との回答。

(3) 講演「超深地層へのアクセス技術－1000m級エレベーター」

三井三池製作所・産業機械事業本部、副本部長の三吉野積男氏のご講演。特に質疑はなし。

4. その他

引き続き開催された安全確認委員会の後、正馬様用地をご視察頂いた。

以上